



(1) 挑戦する知性

東京女子大学が2018年に創立100周年を迎えるにあたり、コンセプトとして掲げたキーワード。東京女子大学の特徴は、キリスト教の精神に基づいた「一人ひとりを大切に教育」、そしてリベラルアーツ教育で育まれる「学ぶことを学ぶ力」にある。学生と教師がお互いの人格を尊重しつつ学問にはげむ自由な雰囲気の中、自分でものを考え、自己の知識・能力を人類・社会のために役立てる叡知を持って、21世紀の社会を切り拓く女性の育成を目指す。

(2) 東京女子大学ブランドビジョン

育成する人物像として、「知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン」「国際的な視野をもった地球市民としての女性」「専門性と幅広い教養をもった女性」「キャリアをカスタマイズする女性」「21世紀の高度情報化社会に対応できる女性」を掲げている。教学改革はこのブランドビジョンに則り実行される。

(3) 知のかけはし科目

文系・理系といった単純な枠組だけでなく、様々な専門領域の壁を越えて、真に学際的な学びを現出する。一つの授業の中で分野横断的な学修が可能で、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して自分の常識や専門を共有しない他者と対話し、相互理解を深める能力を身につける。予想もしなかった組み合わせの相乗効果が期待が高まる。

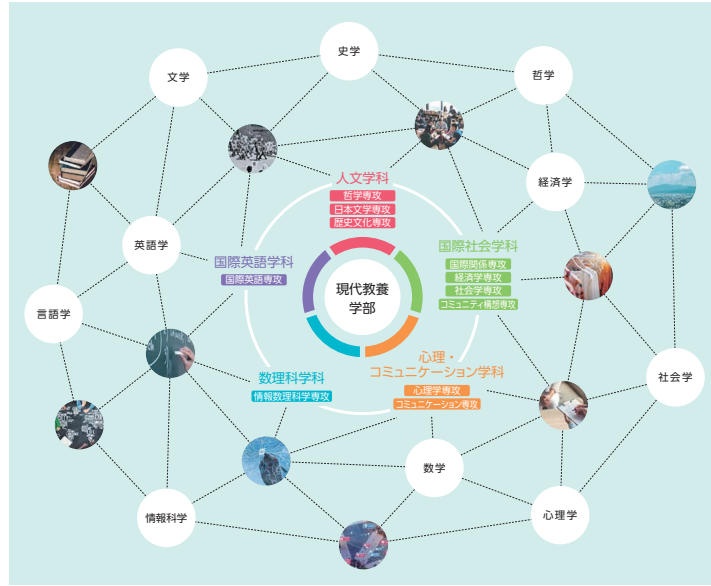
(4) Global Citizenship Program (GCP)

高度な英語運用能力を備えた学生を対象とした選抜制のプログラム。1年間の学部留学が必須で、留学をしても4年間で卒業できる。異なる文化・社会間のかけはしとなる地球市民の育成を目指す。経済的な理由で学修機会を逸することのないよう、世界トップ100の大学への留学には、一人あたり最大600万円が授与される新渡戸稲造国際奨学金がある。その他にも、GCP生を対象とした奨学金も準備している。

初代学長の新渡戸稲造をはじめ、



「挑戦する知性」を育む現代教養学部（2024年度）



その本質的な部分を数理と情報科学の立場から捉える力を養い、AIの周りにある事象や現象について、データサイエンスを含む幅広い選択肢から卒業研究のテーマが選べるようになりまます。身につけた論理的思考力を用いて、現代のICT（情報通信技術）社会において幅広く活躍できるキャリアが期待されます。

また、国際社会学科経済学専攻の「経営学分野」を強化します。ビジネスを対象の中心におきながらも、マネジメントは行政、非営利組織、地域コミュニティにも必要なことなので、多様な主体に共通する本質部分を扱います。中でもマーケティングを強化します。マーケティングは企業では既に多くの女性が活躍している分野です。一方、非営利セクターにおいても自身の政策・取り組みを実効性の高いものとするためにマーケティングの力が必要ですが、皆が十分に身につけている状況にはありません。社会的な課題解決を担う様々な主体の中で、マネジメントの視点をもってリーダーシップを発揮できる女性を育てます。このように経営学分野のカリキュラムが拡充されることにより、経済学はもろろん、隣接する分野とも学びの相乗効果が期待されます。これは2025年への布石ともいえる改革です。

2025年度の改革では全学的な学部の再編へ

リベラルアーツの進化は2025年度、学科の新設・再編に続きます。2025年度からは、それまでの1学部5学科の体制を、人文学科、国際社会学科、経済経営学、心理学、社会コミュニケーション学科、情報数理科学科の1学部6学科に再編します（※本計画は構想中、学科名称は変わることがあります）。

「人文学科を除く5学科では、学問分野を横断して学際的に学ぶためにコース制を導入します。これまでは専攻単位で学生を募集していましたが、2025年度からは学科単位の募集となります。経済経営学を例にとると、1、2年次の間は経済学、経営学、地域デザインの基礎を幅広く学び、3年次からコースを選択します。マクロ経済・ミクロ経済の基礎を学んだ上で地域デザインコースを専門領域に選ぶということができるようになります。各コースに定員を設けているわけではないので、これまで以上に学際的、かつ学生の希望に寄り添った学びができるわけです。人文学科で専攻を継続するのは、積み上げ型の学びが求められるため、これまで同様に専攻単位での学生募集が続けます。カリキュラムにおいても、海外研修や、企業等との連携を積極的に進めていく予定です」（構協副学長）。

森本学長は、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数で低迷する日本の現状を変えたいと思っています。「とくに政治・経済における男女格差は大きなものです。今回の教学改革では、従来の女子教育で手薄だった理系や経営学の分野を強化するとともに、本学の伝統である英語の学びについても、世界共通語としてのカリキュラムを全学向けに強化します。学生の皆さんは、本学での4年間を通じて、自信を持って世界と向き合うことができる人になっていただきたい。未知との出会いを恐れず、新しい挑戦を受け止めることのできる人、多くの学びと経験を積んで、確信を持って自分の道を選び取り、歩み続けることができる人、それがそが、100年前も今日も変わらぬ本学が送りだしてきた『自立した知性』を持つ女性の姿だと思えます。日本女性のリーダーシップ育成は、女子大から始まります」

大学創立者たちの「それまでがないもの」を生み出そうとする情熱は現代にも引き継がれているのです。

「この数年でビッグデータやAIは日常に浸透しており、重要性が増



もりもと 森本あんり学長
1979年国際基督教大学人文科学科卒業。82年東京神学大学院組織神学修士課程修了。91年プリンストン神学大学院博士課程修了。専門は組織神学。国際基督教大学教授、同大学学務副学長などを経て2022年より東京女子大学学長。『反知性主義 アメリカが生んだ「熱病」の正体』など著書多数。

日本の教育制度では当時閉ざされていた大学への門戸を女性に開くため、北米プロテスタント諸教派の援助のもと、「犠牲と奉仕」というキリスト教の精神を教育理念として1918年に創設された東京女子大学。当時の日本では良妻賢母が女性のあるべき姿とされ、その考えに基づく女子教育が主流でしたが、東京女子大学は「自立した知性」の育成を掲げ、個人としての人格を持った女性を育成すべく、豊かな人間性の涵養を求めてリベラルアーツを学びの柱に据えました。その歴史を森本あんり学長は「『挑戦する知性⁽¹⁾』そのもの」であったと振り返ります。

人類・社会に貢献する「専門性をもつ教養人」を育成する教育は、変化の激しい、複雑化する現代において、ますます重要性を増しています。次世代を担う女性リーダーの育成に向け、教学改革がいよいよ始動します。

東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 広報課 TEL 03-5382-6476 <https://www.twcu.ac.jp/>

リベラルアーツのさらなる進化を目指し 2年にわたる教学改革がいよいよ始動

「挑戦する知性」を育てる 伝統のリベラルアーツ教育

東京女子大学の初代学長は、近代日本を代表する教育者・思想家であり、国際連盟事務次長も務めた新渡戸稲造です。

「第一次世界大戦が起きたとき、近代国家建設のために大学が行ってきた教育への反省から、リベラルアーツは注目されることになりました。反時代性、批判精神の学問ともいえるリベラルアーツは、まさに本学の志す『挑戦する知性』そのものです」と森本学長は説明します。

そのリベラルアーツを時代に合わせ進化させるべく、東京女子大学は2年にわたる教学改革に着手しました。東京女子大学ブランドビジョンが掲げる育成する人物像はそのままに、「デジタル」「市民教育・金融教育」「グローバル」が今回の教学改革の3つの柱となっています。なぜこの3本なのか、教学改革担当の構協副学長に尋ねました。

「この数年でビッグデータやAIは日常に浸透しており、重要性が増

全学共通カリキュラムに新設「知のかけはし科目」

全学生が学科や学年の垣根を超えて受講できる全学共通カリキュラムの大胆な改革を象徴するのが、新設される「知のかけはし科目⁽²⁾」です。異なる研究領域の教員2名によるティーム・ティーチングという、斬新なスタイルが導入されます。

「かけはし」には、専門領域を越えて知と知をつなぐという意味が込められています。異分野の組み合わせが既成概念の枠を越え、予想もしなかった新たな「知」を生み出すのです。新しい出会いは、自分自身を偏見や思い込みから解放し、契機と

情報数理科学専攻新設と経営学分野の強化

AIの技術発展が現代社会に大きな変化をもたらし、その必要性が高まっていることを背景に、情報科学、AI・データサイエンス、数理科学を横断的かつ専門的に学ぶ場を整えるべく、数理科学科の既存2専攻（数学専攻、情報理学専攻）を統合し、新たに1つの専攻として「情報数理科学専攻」を立ち上げます。身



なるでしょう」（森本学長）

二つ目の改革は、AI・データサイエンス教育の全学必修化です。AI・データサイエンス科目群として全学共通カリキュラムの中に位置づけます。実習を交えつつ基礎を理解し、すべての学生がデータサイエンスの知見を用いて、自分の専門領域を客観的に分析できるようになります。

三つ目は、英語教育の全学的な強化です。ライティングを通じてクリティカルシンキングを鍛えるほか、実践的なデイスカッションスキルと表現を学ぶ授業を必修にします。また、1年間の学部留学を必須とするGlobal Citizenship Program (GCP)⁽³⁾が新たに開設されます。